

令和5年度

栃木県公立小中学校事務研究大会

令和5年12月1日(金)栃木県公立小中学校事務研究大会を宇都宮市文化会館小ホールにて開催いたしました。



本研究大会は、大会テーマ「実現しよう!子どもの学びの充実を目指す学校事務を」、サブテーマ「令和の時代の教育を推進する学校事務～業務改善から果たす学校経営参画～」のもと、業務改善における事務職員の役割や機能について理解を深め、学校経営を推進する事務職員の姿を描くことを目的として開催されました。

開会式には、栃木県教育委員会をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜りました。オリエンテーションでは、鈴木副会長より、本大会のねらいと流れについて説明がありました。

全体研究会 I

全体研究会 I では、栃事研研究部より令和5年12月から開催される第55回関東地区学校事務研究大会(群馬大会)第2分科会で発表予定の「子どもの学びの充実を図る学校事務」～組織で目指す経営参画事務職員の力量形成～ について提案報告がありました。

令和4年1月の全国大会埼玉大会での実践事例から読み取れるとちぎにおける課題と、学校経営参画に対する事務職員へのアンケート調査の結果から、学校経営に参画するために「共同学校事務室」と「熟議」の2つの要素が十分に活用されていないこと、そして個人の力量形成と共同学校事務室の質の向上が必要であるということが明らかになりました。

そこで学校経営参画を果たすために必要な力量を整理し、それぞれの職層に必要な力量を見直した上で作成した新たな「研修の体系図」について説明がありました。組織が、相互連携・相互補完の関係を構築し、目指す姿や目的を共有することが重要であり、各組織が担うべき役割や研修内容について提案がなされました。

また、作新学院大学人間文化学部 特任教授 浪花寛氏よりご助言いただいた内容について、池田研究部長から説明がありました。事務職員の研修は専門外の指導員が行うため、どうしても実効性が不十分であること、校内でも一人職であるため実践研修が難しいことから、事務研が行う研修が重要であるとのことでした。そして今学校が直面しているカリキュラムマネジメ



ントなど教育活動の充実を図る機能拡大と、働き方改革などの機能縮小の相反する2つのことの実現に向けて、今求められている事務職員の力量を明確に示していただき、より研修が重要になるとご助言をいただきました。

全体研究会Ⅱ

全体研究会Ⅱでは、大分大学大学院教育学研究科 准教授 熊丸真太郎 氏より「『学びの質』の改善につなげる『業務改善』」と題し、業務改善の目的について考え、子どもの学びを充実させていくために学校事務職員が果たす役割についてご講演いただきました。



はじめに、「学び」と「教育」の違いや、目標を達成するための有効な手順についての説明があり、学びの質を高めるには、経営の質を高めることが必要不可欠であると述べられました。

次に、学校事務職員の職務内容の変遷から、学校事務職員が学校にどのように求められているかを考え、システム思考、特に目指すべき姿から考えていくバックキャスト思考で学校の目標達成を目指すことの重

要性をお話いただきました。

最後に、学校事務職員が「学校にいること」の良さや、その事務職員が「あなた」であることの良さを考え、学校がチームとなって協力をし、学びの質を高めてほしいとの励ましのお言葉をいただきました。

地区発表

地区発表では、塩谷南那須地区より「Sun!Sun!Sun!」～いま、学校で本当に求められている事務職員とは～をテーマに実践発表がありました。

塩谷南那須地区の事務研統合の経緯や世代交代の現状を説明し、管理職・学校事務職員向けアンケートを実施したことや、様々な講師をお招きしての研修、事務部経営計画についての取組状況が報告されました。特に、アンケートの結果から、求められている学校事務職員像とそれぞれの理想の差を埋めていく必要があることが分かりました。

また、働き方改革や業務改善が叫ばれている一方で、学校事務職員の業務量は増加していることや、日々の業務が学校経営参画に繋がっていることに気づくことが一人ひとりの意識改革に繋がるとのお話がありました。

最後に、長谷川副会長が振り返りを行い、今年の研究大会を終了しました。

